

実践事例12 中学校第1学年 【歴史的分野 中世の日本】 「武士の台頭と鎌倉幕府」 ー武家政権の成立ー

単元について

- 本単元は、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させることをねらう。中でも本小単元においては、武士の台頭から鎌倉時代の文化と宗教までを取り扱う。武家政権が始まった鎌倉時代とこれまでの時代とを比較し、違いや特徴を考えさせることで、武士の台頭から鎌倉幕府の成立の過程までを理解させることをねらう。
- 歴史的分野の学習内容に興味をもっている生徒が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。その一方で、自分の意見を積極的に発表すること、自分の考えを書いたり説明したりすることに苦手意識をもっている生徒もいる。
- 源平の争乱を通して、頼朝が目指した武家政権の姿や義経との考えの相違などについて考えさせ、武家政権の特色について理解させる。その際、生徒が、当時の人物の考えや行動について関心を高めることができるように、頼朝が義経を追討した事象について取り上げ、2つの視点(御家人制度、朝廷との関係)から、「武家政権にとって御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきか」を設定する。

単元の目標

- (1) 武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きについての関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとさせる。
- (2) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったという時代の流れについて、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を収集させ、有用な情報を適切に選択させ、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったことを理解させ、その知識を身に付けさせる。

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
○武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の成長を背景とした社会や文化など中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、武家政権の特色を捉えようとするとともに、中世の文化遺産を尊重しようとする。	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、主従関係の成り立ちなどから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ○鎌倉時代の文化について、武士や民衆の動きと関連させて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動きに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ○鎌倉時代の文化と禅宗の文化的な影響などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり武家政権が発展していったことを理解し、その知識を身に付けている。 ○鎌倉時代の文化や仏教の特色を理解し、その知識を身に付けている。

単元の指導計画(全6時間)

過程	主な学習活動	教師の指導・支援	時配
学習問題をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○武士が次第に勢力を広げたことを、関東や瀬戸内などで起こった戦乱の様子から理解する。 ○鎌倉時代は武家政権であることを確認し、学習問題Ⅰをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○武士団では、天皇や貴族の子孫が武士の棟梁となって、家来と主従関係を結んだことを、資料から読み取らせることで、武士が台頭してきたことに気付かせる。 ○小学校での学習を振り返り、鎌倉時代が武家政権であることを確認し、学習問題Ⅰを導き出す。 	1
武士はどのように台頭し、武家政権を成立していったのだろうか。《学習問題Ⅰ》			
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ○平清盛の勢力拡大と源平の争乱について調べ、平氏の政治を確認する。 ○源平の争乱について源頼朝や中心人物になった源義経の動きについて調べる。 ○源頼朝が目指した政治について、平清盛の政治と比較して考える。 ○源頼朝が義経を追討した史実から、武家政権の特色について考え、意思決定し、学習問題Ⅱをつくる。(意思決定1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○平氏は、朝廷との関係を深め貴族的な政治だったことや日宋貿易で利益を上げたことに気付かせる。 ○源頼朝は朝廷とは異なる新しい政権を成立しようとしていたことや義経は朝廷の中での出世を考えていたことに気付かせる。 ○両者の比較の中で、御家人との関係(主従関係)、幕府のしくみづくり(武士中心の政治)の視点に気付かせる。 ○源頼朝と義経の対立について、両者の言い分を整理することで、対立点を明らかにし、意思決定を迫る。 ○判断が分かれたことを確認し、学習問題Ⅱへと導く。 	1 1 本 時 (3/6)
論題 武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきか。《学習問題Ⅱ》			
考え・まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題Ⅱについて、自分の考えを基に、他の考えの生徒と討論を行う。 ○学習問題Ⅱについて、討論の内容を基に、2度目の意思決定を行う。(意思決定2) ○鎌倉時代の武士の生活の様子を様々な資料を通して理解する。 ○鎌倉時代の建築物、彫刻、文学作品などについて調べ、鎌倉文化の特色を理解する。 ○仏教の特色を理解し、広まった理由について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題Ⅱについて、考えの根拠に着目させ、討論を行わせる。これにより、根拠となる史実と理由付けとの関係を吟味させ、思考の深まりと知識の定着を図る。 ○討論の内容を基に、自分の考えを見直し最終的な意思決定をさせることで、考えの深まりと歴史的事象への関心の高まりをねらう。 ○武士の生活が、貴族とは違っており、武芸中心の質素な生活だったことを資料から読み取らせる。 ○鎌倉時代の文化が、武士の台頭の影響を受けていることに気付かせるために、共通点として力強さや写実的であることから考えさせる。 ○鎌倉仏教が、現在も広く信仰されている理由を考えさせることで、民衆に広まっていた理由を理解させる。 	1 1 1

中学校1学年 「武士の台頭と鎌倉幕府」 一武家政権の成立一(本時の様子)

本時の目標

源頼朝が弟義経を追討した史実から、武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきかについて、自分の考えをもち、適切に表現することができる。

本時の展開の概要(3/6)

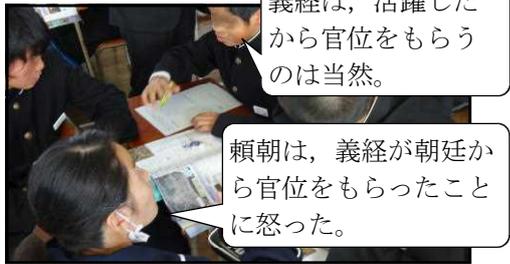
武士が台頭していく過程を追及させ、武家政権となる鎌倉幕府が成立していくことを理解させた。その過程で頼朝の目指した武家政権の姿や義経との考え方の相違について、主従関係と朝廷との関係の2つの視点から考察させ、武家政権にとってどちらを大切にすべきかと生徒に問い、意思決定を迫った(意思決定1)。

本時に取り上げる社会的な問題【社会的な問題のパターン】

社会的な問題「頼朝が義経を追討したこと」【研究や論争となる事件】

本時の様子

過程	学習活動	教師の指導・支援
導入 学習問題Iのまとめ	<p>○学習問題Iのまとめとして、平清盛と源頼朝との業績を比較し、本時のめあてをつくる。</p>  <p>平清盛の政治を一言でいうと？ それに対して源頼朝が目指した政治は？</p>	<p>○平清盛と源頼朝の業績を比較させ、平清盛の政治を一言で表させた。これに対して、源頼朝が目指した政治について問い掛けることで、めあてへと導いた。</p> <p>○頼朝の業績として、御恩と奉公の主従関係や鎌倉幕府のしくみについて確認した。</p> <p>○御恩と奉公の関係を示す図と鎌倉幕府のしくみを示す組織図を提示した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">平清盛</p> <p>今まで通り朝廷の官職をもらい、そのしくみの中で政治を行う。</p> <p style="text-align: center;">黒板に提示した平清盛の政治</p> </div>
社会的な問題を把握する	<p>○平氏滅亡後の頼朝と義経の対立を知り、頼朝がつくりたかった「御家人との関係」、「幕府のしくみ」を視点に考察する。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">社会的な問題</p> <p style="text-align: center;">(研究や論争の材料となる事件)</p> <p style="text-align: center;">「頼朝が義経を追討したこと」</p> </div> <p>○頼朝と義経の対立について、考察したことを基に整理する。</p> <p>なぜ、2人は対立した？ 頼朝が大事にしようとしたことは？</p> 	<p>○なぜ、義経と頼朝が対立をしているのかを読み取ることができるよう、義経と頼朝からの吹き出しとして視覚的に示し、その内容に着目させた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">義経</p> <p>御家人を率いて平氏をほろぼしたのはわたしだ。なのに、なぜ兄の頼朝は弟のわたしがほうびに朝廷の官位を受けたことを言はず、責めるのだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">頼朝</p> <p>義経が率いた御家人はすべてわたしの家来だ。義経はわたしの代理として戦っただけで、わたしの御家人にすぎない。わたしの許しを得ず、官位を受けることは許さない。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">電子黒板に提示した義経と頼朝の言い分</p> <p>○義経と頼朝の言い分を「御家人との主従関係」、「幕府のしくみ」の視点ごとに小集団で整理させた。</p>



小グループでの意見交換の様子

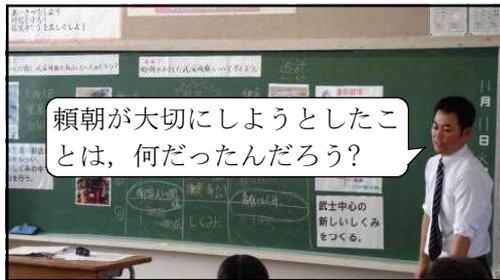
義経と頼朝の関係は？		
義経	視点	頼朝
・頼朝、平氏をほぼ倒したから官位をもらうことに反対しないではない。 ○ 御家人との関係	主従関係 (御恩、奉公)	平氏をほぼ倒したのは自分の家来だし、もしもらうとしても自分の許可を得てからにしないとダメだった。 幕府のしくみ
朝廷と関係をつくった。	しくみ	武士が中心のしくみにしたい。 ○

板書と様式を同じにした生徒のワークシート(一部)

社会的な問題を把握する

○小グループで調べたことを黒板にまとめ、頼朝が目指した政治について確認する。

○義経と頼朝の考えの違いから、学習問題Ⅱを設定する。



○小グループで整理した結果を板書に整理することで、対立点が、頼朝の目指す武家政権にとって大切にしていること(御恩と奉公の主従関係、朝廷との距離をおいた幕府のしくみづくり)の違いであることを気付かせた。

○史実では、頼朝が義経を追討したが、「あなたが頼朝なら、義経を追討するか」と問い掛けた。その際、学習のめあてに立ち戻らせ、武家政権にとって大切にすべきことを「御家人との関係」と「幕府のしくみづくり」とで比較させる。これにより学習問題Ⅱへと導いた。

論題 武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきか。

《学習問題Ⅱ》

○これまでの考察を基に自分の意思決定をワークシートに記述する。

(意思決定1)

○学習問題Ⅱについて討論することを伝え、本時をまとめた。

【評価】

実践を終えて

【成果】

- 生徒もよく知っている歴史上の人物である源義経を取り扱うことで、生徒の本時の学習に対する興味・関心を高めることができました。また、源頼朝との対立に焦点を当てることで、生徒は頼朝が目指した武家政権について考えを深めることができました。
- 人物の業績を中心に授業を進めていくことで、小学校での学習内容を生かすことができました。また、単元を貫く学習問題を設定することで、生徒に歴史的事象のつながりや関連を意識して学習させることができました。

【課題】

- 意思決定1を行う際の判断材料となる資料(データ)が少なく、理由付けとなる部分において、心情面に偏ったものが多くなりました。「御家人との関係」、「幕府のしくみ」のどちらの視点からも思考を促す発問を用意しておく必要があると感じました。